

平成28年第1回

仙南地域広域行政事務組合
教育委員会定例会会議録

平成28年3月22日開議

平成28年第1回仙南地域広域行政事務組合教育委員会会議録

1. 召集日時 平成28年3月22日（火） 午前10時00分
2. 召集場所 仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター会議室
3. 出席委員 教育長 佐藤隆夫, 委員 川島陽子, 委員 佐山富夫, 委員 佐藤芙貴子,
委員 佐藤茂廣
4. 説明のため出席した者
教育次長兼仙南芸術文化センター所長 水戸雅彦
教育委員会事務局主幹兼教育係長兼文化振興係長 黒澤良
仙南芸術文化センター次長 玉渕博之, 仙南芸術文化センター次長 阿部浩司
教育委員会事務局主事 二階堂美和子
5. 開 会 午前10時00分
6. 平成28年第4回教育委員会定例会会議録の承認について

佐藤教育長	会議録について仙南地域広域行政事務組合教育委員会会議規則第20条第3項の規程に基づき、承認を求めます。よろしいでしょうか。
川島委員	3頁のところ、上から佐山委員のところですね、7行目に「宮城県では全員ですね。」というのは、「宮教大では全員ですね。」では。その上に宮教大について使われているんだけど、「宮城県では全員ですね。」では関連性がちょっと。これは宮城県でいいんでしょうかね。
佐藤教育長	これはどうでしょう。宮教大ってことですかね。「宮教大では全員ですね。」ということよろしいでしょうか。そこを訂正お願いします。その他ございませんか。
一 同	<うなずく>
佐藤教育長	質疑ないものと認め、会議録を承認します。なお、仙南地域広域行政事務組合教育委員会会議規則第21条の規程に基づき、公表いたします。

7. 会議録署名委員の指名

佐藤教育長	定例会会議録署名委員を仙南地域広域行政事務組合教育委員会会議規則第20条第4項の規程に基づき、教育長と他委員一名となっておりますので、私のほか、佐山富夫委員にお願いいたします。よろしく申し上げます。
佐山委員	はい。

8. 諸報告

報告第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会委員の就任について

仙南地域広域行政事務組合教育委員会委員の任命に平成28年2月26日、当組合第229回議会定例会において、佐山富夫角田市教育委員会教育長を任命することに同意を得たことをご報告申し上げます。なお、任期は平成28年4月1日から平成32年3月31日までである。

佐山委員	仙南広域の教育委員会の教育委員としてですね、昨年度から引き続きましてですね、今回もですね、やらせていただくことになりました。微力ではございますけども、仙南地域の教育のためにですね、頑張りたいと思いますので、よろしく申し上げます。
------	--

報告第2号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会公印規程及び仙南地域広域行政事務組合教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について

水戸教育次長より別紙資料1にてご説明申し上げます。関連があるため、先にその他(3)の「仙南地域広域行政事務組合芸術文化センター条例の一部を改正する条例について」をご説明申し上げます。条例改正の概要としては、設置住所を訂正したもの、会館時間及び休館日を条例で既定したものの、仙南芸術文化センターの「所長」の職名を「館長」に改めたもの、営利目的における利用料の見直しをしたものである。なお、この条例改正は平成28年2月26日、当組合第229回議会定例会にて承認を得ている。

規程改正の概要としては、条例の改正に伴い、公印を「仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター所長之印」から「仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター館長之印」に改めたもの、事務決裁規程での仙南芸術文化センターの「所長」を「館長」に改めたものである。

(質 疑)	質疑なし。
---------	-------

報告第3号 平成27年12月から平成28年3月までの主な事業等の経過について

教育委員会事業については黒澤主幹より、仙南芸術文化センター事業については玉淵次長より資料2にてご説明申し上げます。

(質 疑)	質疑なし。
---------	-------

報告第4号 平成27年度第38回仙南地区自作視聴覚教材発表会の結果について

黒澤主幹より別紙資料3にてご説明申し上げます。応募作品は6点あり、全作品を全国自作視聴覚教材コンクールへ推薦した。

(質 疑)	
佐藤(茂)委員	質問じゃないんですけども、本当にすごいなといつも思っています。メンバーの方で入った人も前からずっと活躍している人で、すごいなと思って、真似できません。例えば、新しい方々の応募状況とかはどうなっているんですか。
黒澤主幹	28年度の事業で、学校の先生方に向けてっていうのも考えたのですが、なかなかその時間も取れないということもありまして、50代以上のシニア向けに、今までやってた編集に向けての6回シリーズものをやりたいと思ひまして、そこを受けていただいた方を中心に、何とかグループというか集まりを作っていただきまして、この中で1つの教材制作に繋がればということで、来年度から考えております。50代と言っても、60代以上の方がメインになると思うんですが、その中でもし興味がある方がいらっしゃれば、来ていただいて制作というかそこまでいっていただければ、お手伝いしながらそこまでいければ、新たなグループとして立ち上がるんじゃないかと思って期待を持っておりますが、まだ始める段階なので、こういうのを続けていってですね、少しでも来ていただける方を増やしていこうというのが、まず大事かなと。もちろんこちらに来ていただくことも大事ですが、出前に行って教えるということもしていって、作っていただける方を増やしていくということです。
佐藤(芙)委員	はい。佐藤茂廣委員が話されたように、昨年度もこの件について、いつもこれに応募する人が同じなんですよね。我が川崎においても、色々ないいものがあるので、川崎のものをぜひ作ってほしいということで、持ち帰ってお話をしました。反応を示して、こちらにも問い合わせをしたと思います。今聞いて、やはり文化財関係の昨

佐藤(美)委員	年川崎でも5回か6回、わずかの参加者なんですけど、5、6人だったか、毎回参加して、研修したんですね。川崎町内の歴史、史跡も含めてね。友の会みたいなものを作っているんですね。だから今回帰っていったら、この話をして、出前的な話をさせていただいたので、行って見て研修するだけでなしに、映像に残すというか、このことを希望しているので、もう一度再度、この件について、話してみたいと思います。そのときはよろしくをお願いします。
黒澤主幹	今、教育長からお話ありましたが、川田さんの方からお問い合わせありまして、進めようかということだと思います。今、進めている段階なので、今後ともよろしくをお願いします。
佐藤教育長	ちなみにですね、全国大会へ宮城県からどの地区から、やはり大崎地区とか。
黒澤主幹	いまだに作っているのは、仙台市はもちろん作っているんですが、大崎とか栗原、登米といった、過去広域だったところでは作っている方がいらっしゃるので、ここだとうちが。
佐藤教育長	非常に広域に限定される、反対に言うと、非常に質が高くなってきている。ちょっとでは及びはつかないという。それだけ高度化している。非常に高度化しているのですが、いい資料でその作り方を効率よく教えていただければ、どうしようかなという人が生まれてくると思います。
黒澤主幹	この前の学校教育・社会教育専門部会で出たんですが、教材として出ているのは限られているので、教材として出されていないものを自作で作ってみてはどうかというお話があったものですから、それをもうちょっと今後の課題として。
佐藤教育長	ですから、今、佐藤美貴子委員からお話が出たように、各市町では自分の文化財として映像に残していきたいというニーズはあると思うんですね。コンクールに出すとなるとハードルは高くなるんですが、何枚もカットを撮って、そこから選ぶようになるから。ものすごい時間もコストも労力も使うかもしれません。ですから、そうしなくても、今、撮っておかないと、もう永遠にないもの。橋を作るんだけど、壊す前の橋を撮っておかないと永遠になくなる。これは江戸時代から使っているとか、そういうのがあるわけですね。そういうのはコンクールには当てはまらないんですけども、そういうのを各市町でね、映像化すると言って、編集するというのでいいと思うんですね。そういう視点と文化財として残すという視点と、若干違いますよね。そういう研修受ければ、もっと幅広いことができるかなと。よろしくをお願いします。他に質問は。
佐藤(茂)委員	はい。関連なんですけども、感謝しているんです、実は。永野小学校の鈴木さんという先生なんですけども、今ほら真田ブームでしょ。今回は真田喜平太というのね。大人の関係の子どもなんですけど、蔵王町のPRにも繋がってね。この一本前もそうだったよね。2本目になって、私も貰って見てまして、ありがたいなと思ひまして、町内の学校にもPRしてるんですけど。ぜひ見てくださいと。そういう意味では感謝してるんです。
佐藤教育長	今年は勝負の年なので、ばんばん発信してほしいですね。それでは、他に質疑があれば先に進みたいと思いますが、よろしいですか。
一 同	<うなずく>
佐藤教育長	それでは、質疑ないものと認め、報告第4号について承認します。

報告第5号 AZ9ジュニア・アクターズ第23回公演の結果について

二階堂主事より資料4にてご説明申し上げます。平成28年2月13日及び14日に開催し、入場者数は近年では最も多い1,174人である。

(質 疑)	
佐藤(笑)委員	今までAZ9の公演を見てきたんですけど、今回ね、今までのもよかったんですけど、今回地域と一体化したところで、町長さんが出てきたり、婦人会の人たちの踊りが入ったりだとか、本当にね、一緒になってものを仕上げようというような感じがうんと受けられて、見ていてすごくこちらも楽しくなってきたという感じでいたんですね。これから地域と一体化した方向でいくと、より一層入場者数も増えてくるのかなと思ったというか。あと2点聞きたいのは、来年はどこの町が中心なんですか。
教育次長	まだ案が出てきていないので、調整中ということで、分かり次第、ご紹介させていただきたいと思います。
佐藤教育長	今回はザオーランドということで、蔵王町の町長さんがおうって出たんですよね。婦人会も3回だか踊ってたんですよね。それもシナリオの中にもきちんと位置付けられていて、お願いしてやっていたんですよね。
教育次長	ワークショップで教えていただくというのがあって。
二階堂主事	最初は、今回は台本が上がるのが遅くて、台本には最初はなかったんですけど、子どもたちから意見がどんどん出ていて、蔵王町ならこういうのがあるよということで、意見を取り入れていって、指導者の方でもそれだったらせっかくだから蔵王町の皆さんに踊っていただいて、一緒にという話を作っていく中で出てきて。
佐藤教育長	子どもたちから出てくるのはいいですね。他にございませんか。私からもですけども、大河原町のてれまさむねでもAZ9が出演しましたよね。あのときの動員数はどのくらい。200人とか。
玉渕次長	100くらいだったかと。
佐藤教育長	100くらいですか。それは町民だけでなく。募集や応募なんかをして100名とか。
玉渕次長	募集はあまりしない。募集するともものすごい人が集まってしまって、平土間ホールでアクティングスペースも作る、カメラワークとかそういうのもスタジオとして扱うという方向だったので。そこはNHKさんの方に、お任せをさせていただきました。
佐藤教育長	てれまさむねのことで放映されて、えずこホールが紹介されて、それをアウトリーチなんかよりも大きな反響を、一般の方々にも見てもらったんですけども。なるべく多くの人に来てもらう。こっちからこういう情報を発信するんですけども、いくら発信しても、恐らくこのままポイっと、そうすると伝わっていかないんですよね。でも、テレビなんかだと否応なしにも、見ざるを得ない感じになってしまいますから、そうするとこっちで100枚やるよりも、2秒か3秒か映してもらうだけでも、何千人、何万人という方が一斉にばっと見るわけですから、効果が絶大だということもありますと、なるべく外のマスコミなんかも活用すると。そういうのもマスコミで取り上げているとかあれば、宣伝効果も強いというふうに思うんです。私からは以上です。他に質問は。はい。

佐藤(茂)委員	今回は蔵王町云々ということで、ありがとうございます。蔵王町は3人くらいだったんですよね。去年のとか見てみると、非常にね、子どもたちがパワーアップというか、うまくいい言葉で言えないですけど、すごく役者にしても、大人になって上手になったなと思って、すごく嬉しくなって見ました。それでできるだけ入れたいなということで、校長会などでPRしていきたいと思っているんですけども、今の時点で町村別の子どもの数って分かります。今年も今度募集するんですよね。
二階堂主事	今の6年生が抜けてからということですか。6年生が、先程ご報告したんですけど、33人中20人が6年生だったんですね。それと実は1人が引っ越しで抜けるということもあって、残りが12名になります。今の4、5年生ですね。その中の半分が柴田町で、大河原町が3人、白石市が1人、村田が1人、角田が1人ですね。もうすでに24期の募集を開始してて、今、3人ほど申し込みがあります。
佐藤教育長	丸森町で今年の6年生が、5名ほど入っていたのかな。0なんですよ、今度は。でも、親としては必死になっているんですよ。もう1つはですね、去年の全国少年の主張というのを中学生で対象なのが50万人くらいいるんですけども、その中からずっと選び抜かれてきて、宮城県代表で出て、少年の主張の中で全国大会で12名なんですよ。東北・北海道代表で2名のうちの1人となるわけで、それがね、丸森中学校から出たんですよ。その中学生の経歴の中に、このAZ9の団員だったというのがあってですね、もしかしたらそういう力がね、堂々と皆の前で能力を発表するというのがね。で、その全国大会でね、優勝はしなかったんですけどね、奨励賞というものを頂いてきたんですけども、そういうのに繋がったのかなと思っているんです。スタッフの皆さんも、これからAZ9がもたらした効果というものがあるのかを注視していかないと、事業なんてなんぼ使い回しても駄目だと。18万人いる市民、町民の皆さんにですね、こういう1千万円以上のお金を使わせてもらってやって、こういう事業でこういう効果ありますよっていう。効果もきちっと視野に入れた報告していかないとなどは思っているんですけども。そういうことでこれからも進めていただきたいというふうに思っているんです。他に質問とかありませんでしょうか。よろしいですか。
一 同	<はい>との声
佐藤教育長	それでは承認いたします。

9. 議事

議案第1号 仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センター教材貸出規則の一部を改正する規則について

水戸教育次長より別紙資料1にてご説明申し上げます。規則改正の概要としては、視聴覚教材センターが移転したことにより、規則で定めている報告書の様式のFAX番号を改めるものである。

(質 疑)	質疑なし。
佐藤教育長	質疑ないものと認め、決定いたします。

議案第2号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について

水戸教育次長より別紙資料1にてご説明申し上げます。規則改正の概要としては、「仙南地域広域行政事務組合芸術文化センター条例の一部を改正する条例」の施行に伴い、会館時間及び休館日を条例で既定したため規則からは削除するもの、職名に「館長」を追加するものである。

(質 疑)	質疑なし。
佐藤教育長	異議がないものと認め、決定いたします。

議案第3号 仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター条例施行規則の一部を改正する規則について

水戸教育次長より別紙資料1にてご説明申し上げます。規則改正の概要としては、「仙南地域広域行政事務組合芸術文化センター条例の一部を改正する条例」の施行に伴い、会館時間及び休館日を条例で既定したため規則からは削除するもの、実情に合わせ設備器具を見直すものである。

(質 疑)	
佐藤教育長	こういうものが欲しいって予算化できないものですかね。来年度に向けてね、もしあれば。
教 育 次 長	そうですね。要望が高いものがあれば、検討させていただきたいと思いますが。
佐藤教育長	削除したものを復活した方がいいんじゃないかというのがあれば。この国旗につきましては、保管としては持っているわけですか。
教 育 次 長	あります。
佐藤教育長	貸出しはしないということですね。
教 育 次 長	表にはあるんですが、貸出する例が今までなかったんですね。あとは年数が経って、変色してきているものですから、その関係も勘案して、削除しました。
佐藤教育長	例えば、小学校長会とか中学校長会とか、もし使う場合ですね、開会式とかで使うんですけど、そのときはその会の方で持ってきたりするのが普通ですからね。ですから、なくてもいいのかなとは思んですけどね。主催団体が用意するというところで。こういうのは実際にはないんですよ。国旗上げたりとか。
教 育 次 長	そうですね。色んな式典の中では使われることがたまにあるんですけど、その場合はおっしゃられたようにご持参されるというパターンになっております。
佐藤教育長	その他ございませんでしょうか。なかったらよろしいでしょうかね。
一 同	<うなずく>

10. 協議

○ 仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センターのロゴについて

水戸教育次長より別紙資料5にてご説明申し上げます。視聴覚教材センターの印象をより強く抱いてもらうために、ロゴ作成を考えている。事務局からは3案を提案した。

(質疑・協議)	
佐藤教育長	意見をみんなでこうわいわい、がんがん言いながら。
佐藤(茂)委員	それがいいね。
佐藤教育長	まずは3つあるものから、1つテストしたら、どれがいいのかなと消去法でいきますか、最初。スタッフの皆さんが選んだ意見の中でも、3つ目はですね、オリンピックに似ているということでですね、今、盗用問題が、5つを3つにただけだと言われると、ちょっと痛い気がするので、これは対象外にしてよろしいですか。
一 同	<はい>との声
佐藤教育長	はい。それぞれちょっとパッと見、印象が弱いとか、メディアセンター感が薄いとか

佐藤教育長	か、水族館に見えるとかあるんですけども、デザインと言いますか、ロゴとして、印象をより強く、皆にアピールができるのはどっちでしょうか。あるいはですね、これを基にこうした方がいいのではないかという意見があればですね、それも今からも可能だということですから、例えばあずなびあのところをレンズなんですけど、レンズのところを少し歪んで楕円にするとか、そういうことでも可能らしいんですけども。意見をお願いしたいと思います。
佐山委員	一般公募ではなく事務局から。
佐藤教育長	スタッフのデザイナーが作りました。皆で作ったんですか。
教育次長	玉渕です。
佐藤教育長	それでは、隣の委員さんと2人でディスカッションしていただいてどうですか。小学校のグループ活動みたいな感じみたいですけど。
川島委員	ロゴマークというのは、原則こういうところがしっかりとできてないと駄目というのはあるんですか。そのマークを見てすぐ何かをイメージできる、できなきゃ駄目とか。そういうんでなくても、いいんですね。とにかく印象を与えられる。
教育次長	そうですね。説明はどちらかという後付けが多いかと思います。やっぱり見たときに印象的で、この施設とこのマークがなるべく早い時間帯に一致するような印象的なものというのは難しいとは思いますが。先程、教育長も申し上げましたけども、3番みたいに、他にあるようなマークですと、これはどこのマークだったかなと思われるので、あまりよろしくないと思われます。特徴的であること、あるいは目立つことですね。
佐藤(笑)委員	あのね、今後ね、このマークがどちらかに決まったときに、よくこの頃ですね、よくピンバッチとか何とかに作ったりして、それを売って、ジャケットにつけたりなんざりしている人も増えているんですね。色んな町でも、やはり丸森は丸森、白石は白石なりの、皆その町のこういったマークのがピンバッチになっているんですよ。こういった資料にだけこういったのを使うのか、今後そういった多様な使い方を考えていくのかも含めてね、質問したかったんですけど。
教育次長	色んな使い方は想定できると思います。いずれこの施設名を出すときに、可能な限り、なるべくこれを使ってですね、がんがん親しんでいただく。皆さんがこれはあずなびあだというふうに思っただけならばと、どんどん使っていきたいと思います。使い方も色々想定できるかなと。
佐藤教育長	色々使えると思うんですが、これをえずこホールのロゴと並べたときに、統一感があるという、私も見ているとは思んですけど、えずこホールのロゴってどうだったですか。これと並べたらどうなんですか。見栄えがするのは。恐らく2つを併せて使うと思うんですが。
川島委員	ここにあるAZ9のロゴマークは関係ないんですよ。
黒澤主幹	組合としてのものなんです。AZ9ジュニア・アクターズを進めていくために作ったもので。アクターズに限らないで、組合全体で。それも使えるんですけど。
佐藤教育長	それでは決まったみたいなので、こちらのグループから。佐藤グループお願いします。
佐藤(笑)委員	一般的にね、皆さんね、一生懸命考えていただいたということですね。2人でよく相談して、まとめたものをよく読んだときに、2人の考えは1番上なのかなというふ

佐藤(美)委員	うに思ったんですよ。色々とまとめ方とかね、色の使い方とか、考えたときに2人の意見が偶然に一致したんですよ。合わせたんでなくて、偶然気持ちと一緒にあったんですね。
佐藤教育長	ありがとうございます。佐藤グループがですね、1番上ということなんですけども、山川グループは。
佐山委員	まだ相談はしていないんですけど。
佐藤教育長	それでは、個々に。佐山先生から。
佐山委員	最近はね、この2番目のやつがね、こういう形の表記の仕方って多くなっているんですね。色んなところを見てるけれども。こういう表現の仕方多いんだけど、1番がね、これは質問なんだけれども、上のやつのマークでね、真ん中のAは分かるんだけど、左右にあるこれは何なのか。AZは分かるんだけど。左右のこれは何を意味しているのか。これはカメラのレンズか何かの。
玉渕次長	これはレンズの絞りの部分です。それを一部残して、それをAとZの一部を取ると、にっこりマークみたいに。
佐藤教育長	今出てましたけど、絵文字というか。これは大丈夫ですか。絵文字に引っかからないですか。真ん中にAがあるから、大丈夫かな。Aを抜くと絵文字とそっくりになると、ちょっとまずいのかなと。川島先生のご意見は。
川島委員	私はパッと見、素敵感は真ん中下の方。AZというのがすごく分かりやすいし、それから山と川と、そういうのが分かりやすいなと思った。ここの説明の中に、えぞこホールのロゴと並べたときに、統一感があるというんですが、並べてみると、上のあずなびあの丸い方が、素敵。元々あるえぞこの方が負けてしまいそうに見えたので、逆に全く正反対の、何の関連性もないえぞこホールの丸いマークと、真ん中の丸いやつを比べることでいいかなって。真ん中いいなと思ったんですが。
佐藤教育長	これはずっと使うもんですから、スタッフの方でも30分やそこらでなく、何時間も何時間もかけてここまで来たと思いますので、まったく初めての印象である委員の皆様のご意見が、一般の方々がパッと見たときに感じるものそのものだと思いますので、忌憚のない意見を頂いて、絞り込んでいただければと。私も意見としてね、議長役が意見を言っているのかというのもありますが、1案を見ていくと口のところの黄色というのが、これはグレーでやるんですか。黒の場合もあるんですね。
玉渕次長	厳密に言うとグレースケールといって、白と黒の場合はメリハリをもうちょっとつけたうえで。
佐藤教育長	この縁のところを線を入れて。要するにね、パッと見たときにね、下の方がたぶん見えなくなるのね。白っぽい場合。ですから、赤と緑というのは補色関係ですから、非常に目立つ。黄色と青も補色関係ですから目立つんですよ。ところが、色の度数というものがあって、白っぽいというか、黄色も白っぽいんですが、色の濃さですね。下半分がね、消えてしまう可能性があるんですよ。これがもし黒とかが入り出したら、今度は青が溶けちゃうんですよ。ですから、その辺を考えていただければ、これでもいいのかなと。その笑顔を作るとしたら、その絵をもう少しバランスよくするといいのかなと。それからこのあずなびあというのものもあるんですけども、えぞこホールのマークがeを模してますよね。こういうふうな三角形の方にAとZを並べて、末広がりみたいな。向こうからやってくるみたいな広がりをね。ちょっとZを小さくして、流れとかね。遠近感を出すみたいなのでもいいのかなと。AとZが対

佐藤教育長	比して。あずなびあの文字は全部英語の文字にするんですか。2番目と3番目は文字が段々と小さくなっていきますけど、これはいかようにもできる。
玉 渕 次 長	そうですね。基本はもう2パターンに絞ってしまっているんですけども、フォントそのものは実際にいじって変えられるので、ここをもう少し丸くした方がいいんじゃないのか、もう少し膨らました方がいいんじゃないのかとか、細くした方がいいんじゃないのかとか。その辺はバランスを見ながら。文字がしっかり入っていた方が、上のものがしっかりと乗っかってくるということになります。土台の方が強くなりすぎると、文字は細くした方が収まりはよくなる。その辺は全体で見ながら押さえていくことになります。
佐藤教育長	この白黒の場合、この背景の場合は黒で書きますけど、こっちのように黒とか茶色の場合は白に。
玉 渕 次 長	実際は白白でやる場合もありますし、物によっては黒黒でやる場合も。えぞこホールのマークの元々は赤のeのマークと黒の文字です。
佐藤教育長	あと、私からの質問ですけども、2番目の左上のところに、緑の玉がありますよね。黄色い玉、赤い玉と。これは。
玉 渕 次 長	どちらかと言うと、脈動感を表すもので、どっしり構えてはいるものの動きがあると言うかですね。噴火みたいなことを言われたことがあるんですけども、そう見えちゃうところが。水族館だと言われると、水族館に見えてくるところが。
佐藤教育長	ぶくぶくって泡が出ている感じに。なるほどね。Aの下のところは白抜きになって、脈動するために。
玉 渕 次 長	そうですね。ちょっと変化をさせて。
佐藤教育長	どうなんでしょうかね。多数決でも無理なんですけど。
佐 山 委 員	要するに、視聴覚教材センターという形のイメージをですね、どこかに入れようとする。さっきの隆夫先生のこのイメージをね、入れたいのね。このあれを入れて、これをもうちょっとデザインを変えていただくといいかなという感じはする。そうすると、逆にえぞこホールのものごく単純化されたロゴマークとね、こっちがなんか対照的でいいなと思ったんですよ、並べたときにね。単純化してもいいのかなど。文字の中だけでいいのかと。これは活かしてほしいんですよ。
佐藤教育長	これは下に合わせたらいいか、真ん中のところまででいいか、下に行くはずとね、遠近感でですね。そうすると、その辺デザインとして考えてみてもらって。できるだけ色はシンプルに、色はあまりない方が強烈な印象はあると思うんです。
佐 山 委 員	視聴覚というのを光で表現している。三原色で表現しようとしたんだけど、こちらは形で光を表現しようとしているでしょ。例えば、スライド映写機から光が出てスクリーンに広がる形の、あのイメージで。こっちの方が私は瞬間的にイメージとして、私は映し出そうとしている。
佐藤教育長	今の意見にかなり皆さん、頷いていて、2番目を基にして、玉渕デザイナーに力量を発揮していただいて、いいものにしていただくということでよろしいですか。そうすると、えぞこホールとのロゴマークとかえって丸丸というと、両方にある壁みたいなものを感じてしまうので、えぞこホールが丸であるなら、こっち三角っていう形でいいですか。この方向に落ち着かせていただきたいと思います。じゃあ、後の方は水戸さん始め、スタッフの方に任せたいと思います。でも、これって何日までということもあるんですか。

教育次長	できれば、4月から利用したいなと思っていたんですが、もし大幅なデザイン変更であれば、もう一度見ていただいた方がいいのかなと思われませんが。
佐藤教育長	だいたい2番目を中心にして考えていただいて、あともう一回見る機会が、今から作ることはできないので、決裁のときに来ていただければということで進めさせていただきます。よろしいですか。
一 同	<はい>との声

○ 次回教育委員会定例会の日程について

佐藤教育長	平成28年5月30日午後3時ということで進めます。
-------	---------------------------

1.1. その他

(1) 平成28年度仙南地域広域行政事務組合教育費当初予算について

水戸教育次長より別紙資料6にてご説明申し上げます。

(質 疑)	質疑なし。
---------	-------

(2) 平成28年度仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター特別会計当初予算について

水戸教育次長より別紙資料7にてご説明申し上げます。

(質 疑)	質疑なし。
---------	-------

1.2. 閉 会 午前11時40分

上記の会議の顛末を記録し、その内容が真正であることを証するためにここに署名する。

平成28年5月30日

教育長

署名委員